

35. サンマ *Cololabis saira* (Brevoort)

図版14

英名 saury, Pacific saury

露名 サイラ сайра

地方名(北海道) ジャミ (小型魚)

漢字 さんま 秋刀魚

アイヌ語 シリカブチェツポ、テレケイワシ

【形態】 体は細長い。両あごはくちばし状で、下あごが上あごより突き出る。背びれと尻びれの後方に数個の小さなひれがある。体の背部は緑青色、腹部から体側は銀白色。下あごの先や尾柄*部の後方が黄色みを帯びることがある。標準体長* (以下体長) はふつう35cmまでだが、最大38.7cmの記録がある。体長によってジャミ (20cm未満)、小型魚 (20~24cm未満)、中型魚 (24~29cm未満)、大型魚 (29~32cm未満)、特大魚 (32cm以上) の銘柄に分けられる。

【生態】 日本からアメリカ西岸に至る北太平洋に広く分布。魚群の分布域から便宜的に北西太平洋群、中央太平洋群、北東太平洋群の3つに分けられているが、アイソザイム*による集団遺伝学*的研究や寄生虫*の寄生*状況などの研究から、北西太平洋群と中央太平洋群には交流があることが分かった。

サンマは外洋性の浮魚*で、季節的に南北に大きく回遊*する。北西太平洋では、黒潮*の勢力が強まる春から夏にかけて黒潮流域から餌が豊富な親潮*水域に北上し、8月中旬ごろに南下を開始する。また、日本海でも春から夏

にかけて北海道まで北上し、秋に九州北西海域に南下する。北西太平洋の北上群のうち・小型魚を中心とした魚群の一部は、7月下旬～8月下旬に千島列島の中南部を通過してオホーツク海に回遊し、9月下旬～10月上旬に沖合域の水溫低下に伴って沿岸に来遊する。

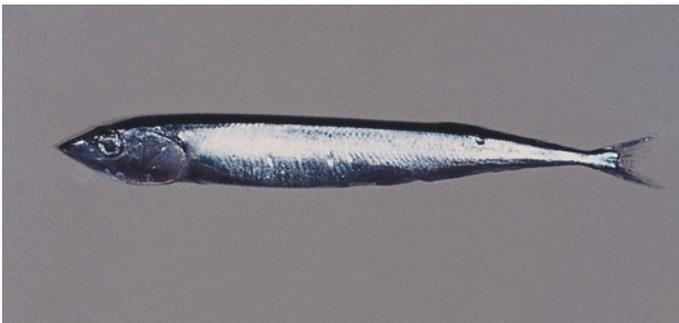
なお量的には少ないが、日本海から宗谷海峡を通過して7月下旬～9月にオホーツク海に入る群もある。

性成熟*は体長20cmくらいから始まる。1産卵期に数回産卵するとされる。1回ごとの産卵数*は1,500～5,500粒。北西太平洋の産卵場と産卵期は、三陸・常磐沖の黒潮流域から混合水域*で9～12月、伊豆諸島沖から薩南海域*で1～3月、三陸・常磐沖の黒潮流域から混合水域で4～6月と、日本列島周辺でほぼ周年産卵している。卵は楕円形、比重は1.049～1.062で海水より重く、約20本の付着糸*を持ち、ホンダワラ類*などの流れ藻や浮遊物に付着する。卵発生の最適水溫は14～16℃で、受精後10～14日でふ化する。

ふ化仔魚*の体長は約6mm。体長5cm前後で群れをつくり始め、体長6～15cmで成魚*に近い体形となる。体長30cmほどの大型魚の月齡は、耳石*日周輪*の解析で生後19カ月と13カ月の2通りに推定されるなど、年齢と成長に関してはよく分かっていない。

主な餌は動物プランクトンである。体長6cm以下の仔魚や稚魚*では小型のカイアシ類*で、6cm以上の幼魚*ではオキアミ類*も加わる。15cm以上の未成魚*や成魚は、これらに加えヨコエビ類*や翼足類*なども餌とし、魚卵や稚魚も食べる。摂餌は日中から薄暮に活発。親潮水域では、体内に脂肪分が多い冷水性のカイアシ類をサンマが大量に食べることによって脂が乗る。

一方サンマは、ヒラマサ、シイラ、サメ類、クロマグロなどの大型魚類やアカイカ、クジラ類、海鳥などによく捕食される。このためサンマは、北太平洋における食物連鎖*の中で重要な役割を担っているといえる。



サンマの稚魚（全長7.8cm）